


法学概論

Introduction to Legal Studies

OHTSUKA Yusuke
大塚 雄祐

科目ナンバリング：DIB-2-431-12


■授業の目的及び到達目標

法の存在意義や法を学ぶ意義を理解するとともに、憲法・民法・刑法を中心とした法学に関する基礎的な知識を身につけることを目的とし、法的思考力や論理的表現力を修得することを到達目標とする。

■授業計画

- 1 法を学ぶこと
 - ・法学を学ぶ意義
 - ・法の分類
 - ・条文の読み方
- 2 憲法(1)
 - ・日本国憲法の存在意義
 - ・憲法の基本原理
 - ・憲法の条文構造
 - ・基本的人権の性質と分類
- 3 憲法(2)
 - ・幸福追求権
 - ・平等権（法の下での平等）
 - ・参政権
- 4 憲法(3)
 - ・自由権の全体像
 - ・精神的自由権の優越（二重の基準論）
 - ・思想・良心の自由
 - ・信教の自由
- 5 憲法(4)
 - ・学問の自由
 - ・表現の自由
- 6 憲法(5)
 - ・経済的自由権とその規制の意義
 - ・職業選択の自由
 - ・財産権
- 7 憲法(6)
 - ・人身の自由の意義
 - ・奴隷的拘束・意に反する苦役からの自由
 - ・居住移転の自由
 - ・適正手続の保障
 - ・刑事手続上の権利
- 8 憲法(6)
 - ・社会権
 - ・受益権
- 9 刑法(1)
 - ・刑法の目的と意義
 - ・刑罰の種類と意義
 - ・刑法の基本原則
 - ・犯罪とは何か
 - ・犯罪の成否の判断方法（犯罪論体系）
- 10 刑法(2)
 - ・構成要件の意義と内容
 - ・違法性阻却事由の意義と内容
 - ・責任阻却事由の意義と内容
- 11 民法(1)
 - ・民法とは
 - ・権利の主体性
 - ・物権の意義と性質
 - ・物権の種類
- 12 民法(2)
 - ・債権の意義と性質
 - ・債権の種類
 - ・契約と債権
 - ・親族関係に関するルール
 - ・相続に関するルール
- 13 まとめ
試験を実施後、試験の内容や第1～12回の授業内容についてフィードバックを行う。

■授業の方法

受講生がイメージしやすいように、具体的な事例や判例を数多く取り上げて解説する。レジュメを適宜配布しながら、講義を進めて行く。

■予習・復習

予習としては、指定教科書の授業内容に該当する頁を一読すること。復習では、習った内容を友人等と互いに説明し合い、議論をすると、より理解が深まる。授業を聞いて「何となく分かった」だけでは、自ら思考し論じる力は身に付かない。担当教員への質問・学修相談も大いに歓迎する。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

- ・期末試験（80%）：論述形式の問題を出題する。授業内容を理解できているかを問う問題を出題する。
- ・授業への取り組み（20%）：受講態度を考慮する。

■教科書・参考書

奥田進一＝高橋雅人＝長友昭＝長島光一編著『法学入門』（成文堂、2020年）